

子ども・子育て新システム検討会議作業グループ こども指針(仮称)ワーキングチーム(第5回)	参考1
平成23年5月26日	

第4回こども指針(仮称)ワーキングチーム (平成23年2月16日開催) における各委員からの主な意見(未定稿)

- ※ 本資料は、会議の場における委員からのご発言をまとめたものです。
- ※ 各委員からのご意見については、発言者への確認が未了のものであり、未定稿です。
- ※ 「各委員提出資料」として提出された意見についても、本資料とあわせてとりまとめの際の参考とさせていただきます。

目 次

(1)教育時間・保育時間について

①子どもの生活と教育時間・保育時間	2
②教育・保育の質の保障と教育時間・保育時間.....	3
③保護者の就労と教育時間・保育時間.....	4
④その他	5

(2)子どもの発達(発達の特性、発達過程)について

①子どもの発達.....	6
②発達の特性、発達過程の示し方	7
③その他	8

第4回こども指針(仮称)ワーキングチームにおける各委員からの主な意見

(1)教育時間・保育時間について

①子どもの生活と教育時間・保育時間

(各委員からの主な意見)

① 子 ど も の 生 活 と 教 育 時 間 ・ 保 育 時 間	<ul style="list-style-type: none">○ こども園で過ごす時間、地域で育つ時間を含め、子どもの時間を24時間として考えることが重要であり、子どもの時間を保育者、又は保護者のたくさんのニーズの選択肢の中から幅を持たせた意味合いで記載したかどうか。【王寺委員（全国認定こども園協会、若盛委員の代理）】○ 実際の子どもの実態を見て生活時間を考えていくという発想が必要。【秋田座長代理（東京大学大学院）】○ 地域と家庭の実態をきちんと認識した上で協議することが必要。子どもが育つ環境として24時間の中で考えることが必要。【松田委員（子育てひろば全国連絡協議会）】○ 家庭での生活の充実など、子どもの24時間の生活あるいは1週間の生活の中で成長するという視点での記述があってもよい。【山縣委員（大阪市立大学）】○ 子どもの24時間をどう把握し、こども指針を作成するか。幼稚園や保育所での園生活の時間と家庭における生活時間との関係を整理して考えることが必要。【大場委員（大妻女子大学）】○ 保育所では子どもの24時間の生活を見据えて、養護と教育を一体的に保育として提供している。そういったことを踏まえた上で保育時間を考えるべき。【御園委員（全国保育協議会）】○ 幼稚園の標準教育時間は子どもの側としてどのような生活を保障するのかという観点から考えられている。こども指針においても、子どもの側に立って教育時間を考えるべき。【小田委員（国立特別支援教育総合研究所）】○ 保育時間の考え方については、子どもの生活のリズムとして1日8時間で5日というように、親の実態によって変えるのではなく認めていくということか。【秋田座長代理（東京大学大学院）】
---	--

②教育・保育の質の保障と教育時間・保育時間

(各委員からの主な意見)

②教育・保育の質の保障と教育時間・保育時間	<ul style="list-style-type: none">○ 幼児期のコアとして、一人一人の子どもの活動を集団として保障するときに、一定の時間、子どもたち全員が集団として参加しなければならない時間は確実にある。集団として活動するためには、例えば5分遅れただけでその1日を楽しめない子どもが出てくる。教育の場面として考えているカリキュラムの中で活動していくときに、少なくとも全ての子どもが参加できる状態があって初めて教育効果があるということを考えることが必要。コアとなる教育時間を全ての子どもに保障するための仕組みをつくり、その上で、周囲の生活時間をどう保障するのかを考えることが必要。【田中委員（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構）】○ 子どもの経験としてどういう活動の時間を保障することが必要か。子どもの発達に応じて、子どもの経験の質を保障すべきというところから時間や日数を考えることが必要。【秋田座長代理（東京大学大学院）】○ 最低限どこまでを全ての子どもたちに対する教育、保育として保障するのか。全ての子どもに対して親の就労にかかわらずミニマムのところを押さえていく必要がある。地域や家庭、こども園がトータルとしてつながりながら、子どもたちを育てていくことを考えることが必要。【渡辺委員（全国認定こども園連絡協議会）】○ 集団で行う時間として、集中力が持続できる時間としては、4時間が丁度よいのではないか。集団として、いわゆるコアのカリキュラムとして子どもがいるという意味では、限界は現実にあるということを認識すべき。【田中委員（全日本私立幼稚園幼児教育研究機構）】○ 教育時間については、それぞれの地域が適切な判断をする、幅を持った解釈ができるよう、4時間で示すことがよいのではないか。【岡上委員（全国幼児教育研究協会）】○ 幼稚園では、小学校との接続をすごく大事にしているところであり、集団教育の中に適応できて社会性を持つ子どもを育てることはとても大切なので、3歳以上の教育時間については、今の教育要領に示されている時間を大切にしてほしい。【荒木委員（全国国公立幼稚園長会）】
-----------------------	--

③保護者の就労と教育時間・保育時間

(各委員からの主な意見)

③保護者の就労と教育時間・保育時間	<ul style="list-style-type: none">○ 多様な形の親の就労に応じた保育を準備することが重要。【秋田座長代理（東京大学大学院）】○ 保育時間については、親の就労の状態によって利用実態が変わってくるので、慎重に考える必要がある。【竹下委員（保育園を考える親の会）】○ 保育時間を遅くしても、その分、親の労働時間が遅くなっては、子どもや親も余裕がなくて疲れることになる。社会全体の取組の中で、子どもにとってどういう保育時間がいいかを考え、子どもの生活全体を見直すような提案が必要。保育時間の週の延べ時間を表せると子どもも親も余裕が出るのではないか。【藤森委員（全国私立保育園連盟 保育・子育て総合研究機構）】○ こども園が閉まっているのに職場がそれに対応できる就労環境になっていなければ保護者に不安が残る。また、夜間保育所の利用者のように利用時間が一般と少しずれていることが常態化している場合もある。こども園の開所時間、閉所時間の検討の際は、理念先行型のみでないようにすべき。【山縣委員（大阪市立大学）】○ 子どもの生活を考える際には親の働き方を考えることが必要。親が子育てに参加することができるようにすることを考えておかないとこども指針をつくったが、子どもの生活はバラバラになったということになりかねない。【渡辺委員（全国認定こども園連絡協議会）】
-------------------	--

④その他

(各委員からの主な意見)

④その他	<ul style="list-style-type: none">○ 子どもとはいかなる存在なのか、子どもにどう育てほしいのか、どのような子ども時代を大人が保障すべきなのかについての共通理解が必要。【御園委員（全国保育協議会）】○ 指針はあくまでも大綱だと考えると、具体的な細かい事業等を拘束する内容を指針に書くのは、性格上、好ましくない。【山縣委員（大阪市立大学）】○ 保育者が翌日の保育を準備したり、研修したりする時間についても、よりよい教育、保育の実現のために必要になってくることをメッセージとして入れられないか。【秋田座長代理（東京大学大学院）】○ 子どもたちが生活の中で遊ぶ、その中に教育的要素があるわけなので、こども指針ではその点を特に大事にしてほしい。【島田委員（日本保育協会）】○ 親をつないだり、親たちが自分たちでできるようになっていくことが大きな課題。親の方から自ら家庭で育てたいとか、地域の中でつながりながら育てたいということはなかなか出てこない。子どもにとって必要だということを指針の中で示すことが必要。【松田委員（子育てひろば全国連絡協議会）】○ 子どもも親も疲れないで余裕があって子育ては楽しい、将来に夢を持って皆で楽しくいこうという流れを基本的な理念として出していくことが必要。【荒木委員（全国国公立幼稚園長会）】
------	--

(2)子どもの発達(発達の特性、発達過程)について

①子どもの発達

(各委員からの主な意見)

①子どもの発達	<ul style="list-style-type: none">○ 子どもの発達は諸領域がお互いに関わり合って育っていく。例えば、社会性が育ってきたときに、身に付いていた生活習慣が崩れたりするなどのように、同心円的に育つというイメージではなく、あるところが育つときにはあるところが足踏みのような形になることもある。実際の子どもの姿と重ねながら、発達の諸領域がいかに関連性を有しているかを押さえた上で、子どもの発達の特性や発達過程を考えることが必要。【大場委員（大妻女子大学）】○ 幼児期の子どもの発達は行ったり来たりしながら育つ。例えば、外で遊んだら手を洗うことを教え、それができるようになっても、もっと遊びが面白くなったり、楽しさが増えたと、手を洗うことより、まずやりたいことが増えてくるということが、子どもが持っている現象的なものである。この時期の子どもの発達過程は、できることが発達ではなく、プラスの発達もあればマイナスの発達もあるということを理解することが必要。【小田委員（国立特別支援教育総合研究所）】○ 保育所では、例えば2歳児の保育の場面でも1歳児や3歳児の発達を視野に入れているが、子どもは進んだり、戻ったりしながら育っていくことがわかるようにすることが必要。【御園委員（全国保育協議会）】○ 子どもの様々な側面が相互に一人の人格としてどう関わっていくのかということは、きちんと押さえることが必要。【秋田座長代理（東京大学大学院）】○ 0歳の育ちがあって3歳がある。0歳は何もわからないのではなく、十分わかっており、ただ、言語という表現能力がないために大人には理解できない部分がたくさんある。0、1、2歳はいろいろなことを学んでいるということを記載してほしい。【王寺委員（全国認定こども園協会、若盛委員の代理）】○ 子どもの発達について示すと分かりやすいが、一方で、こういうことができるか、できないかといったことを親がチェックするような発達のチェック項目が出てくる。親としては、できる、できないと評価してしまうところを、そういうことではないということで安心してもらうためにどうしたらよいかということが課題になる。【竹下委員（保育園を考える親の会）】
---------	---

②発達の特性、発達過程の示し方

(各委員からの主な意見)

② 発達の特性、発達過程の示し方

- 子どもの発達過程は大変重要だが、「一般的な」とか「基本的な」という言い方をたくさん入れるほど、子どもががんじがらめになるという点にも気をつけながら、考えていくことが必要。【小田委員（国立特別支援教育総合研究所）】
- 発達の過程や特性は大綱的に示すべき。発達は一人一人の個別的な問題であり、それを個別で対応していくよりどころとして解説書が必要。子どもの発達は進んだり戻ったり、あるいは逆転したりしながら発達していくという原則を理解した上で、各園で解釈できるように示していくことが必要。【岡上委員（全国幼児教育研究協会）】
- 子どもの発達過程や特性については、指針では大綱的に示し、詳しいことは解説書で解説することが望ましいのではないか。【荒木委員（全国国公立幼稚園長会）】
- 発達過程を大綱化することは重要であり、発達過程を細かく示すことによって、できる、できないという結果だけで子どもの育ちをみることになってはいけない。保護者であろうと、保育者であろうと、自分が愛される、自分に寄り添ってくれる人がいるという環境が子どもの育ちにとって必要。【渡辺委員（全国認定こども園連絡協議会）】
- 子どもの発達について、親たちにもきちんと伝わるようにすることが必要。また、それを支える専門家、プロの人たちがきちんと発達を確認してほしい。家庭や地域の中で実践できるようにするためには、プロの方々が子どもの発達をどう保障していくのかを指針の中に入れてほしい。【松田委員（子育てひろば全国連絡協議会）】
- 子どもの発達は、保育者が子どもにどう関わり、子どもがどんな環境にいるか、どんな子ども集団の中での体験が多いかによって随分変わってくる。例えば、クラスに一人制作の上手な子どもがいれば、そのクラスは割と制作が発達してくるなど、子ども同士の関わりの中で模倣したり、共感したり、人の意見を聞いたりすることなどの影響を受ける。指針で発達過程を示すことは考えられるが、実際の子どもの発達とずれるときに、ここを園でどう理解するかが課題となる。【藤森委員（全国私立保育園連盟 保育・子育て総合研究機構）】

③その他

(各委員からの主な意見)

③その他	<ul style="list-style-type: none">○ シチズンシップのような社会の一員意識、社会の中で子どもがどのように育つべきかをもう少し書き込んだ方がよいのではないか。【藤森委員（全国私立保育園連盟 保育・子育て総合研究機構）】○ 一人一人が参加し共に生きるための関係をつくり出していくという市民性を育むことは、乳幼児期から生涯までをつなぐためには重要だと考える。【秋田座長代理（東京大学大学院）】○ シチズンシップのように、将来こういう大人になってほしい、こういう社会を担っていく人になってほしいということを指針に示すことはよいと考える。また、子どもたちは自己肯定観が低いと言われているので、自分を肯定できるセルフエスティームを持てる子どもになることや、エンパワメントということで自分をエンパワーしていく力を持っていることを発達の中にうまく入れられるとよいと考える。【竹下委員（保育園を考える親の会）】○ 生と死が当たり前のようにつながっている世界ということを、今の子どもたちはわからなくなっているのではないか。こども指針ではこうした社会の現状を踏まえて記述する必要がある。【島田委員（日本保育協会）】○ 0歳から就学前までの子どもたちの発達の連続性と子ども一人一人の発達の状況を踏まえた保育が実施できるような視点から、こども指針ができるとよいと考える。【御園委員（全国保育協議会）】○ 認定こども園のこども要録、幼稚園の指導要録、保育所の保育要録についても、一本化すべきではないか。【王寺委員（全国認定こども園協会、若盛委員の代理）】○ 5歳の集団性が35人なのか、20人なのか、10人なのかといったことを考えることが必要。お互いに刺激をしながら育っていく出会いが小学校以上の教育につながっていくのではないかと考える。【渡辺委員（全国認定こども園連絡協議会）】
------	---

(各委員からの主な意見)

③その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 豊かな環境が子どもに保障されて環境を通して子どもが育つ。そこで感性や創造力をどれだけ育てられるかというようなことなど、広い意味で大きく捉える中で実態に合わせて考えていくことが必要なので、指針は大綱化することが望ましい。【荒木委員（全国国公立幼稚園長会）】 ○ こども指針については、ナショナルスタンダードとして全国共通の基準を具体的に示してほしい。【王寺委員（全国認定こども園協会、若盛委員の代理）】 ○ こども指針を3つの施設種別に同時に適用する必然性がわかりづらいので、その点をどう解消していくかが重要。【山縣委員（大阪市立大学）】 ○ 指針を読まずに解説書だけを読むことになっては大綱化とはいえない。指針の公表後、時間をかけて各地域での優れた実践例を集めたものをつくった方がよいのではないか。【山縣委員（大阪市立大学）】 ○ 指針を大綱化する場合には、やはり解説書が必要。解説書はマニュアルとは捉えるべきではなく、それを読み込んで、その意味を解釈して、では実際の幼稚園での教育活動ではどう捉えて実践していくかを各園で考えて取り組むことが重要。【岡上委員（全国幼児教育研究協会）】 ○ 最低限守るべき基準となる指針をなぜ大綱化するかというと、より地域や園の専門家としての独自の判断を尊重して、その基準から実態に合ったものがつくれると思うからであり、基準を大綱化するということの意味をしっかりメッセージとして出していくことが必要。【秋田座長代理（東京大学大学院）】
------	--